

要旨

目的：生殖年齢にある女性に対して質問紙調査を実施し、性の QOL に関連する要因を探索し、女性の健康支援と次代育成のための示唆を得る。

方法：以下の条件を満たす女性 180 名を対象とした。①18～45 歳未満②既婚・未婚にかかわらず、性的パートナーがいる③日本語の読み書きが可能である。SQoL-F の尺度および、性行動や個人的背景からなる 44 項目の質問紙調査を、紙媒体および Web 上で実施した。SQoL-F の総合平均得点と対象者の背景との関連を見るため、t 検定、一元配置分散分析および、多重比較検定を行った。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。(承認番号:17A-070)

結果：104 名の対象者から有効回答を得た。対象者の SQoL-F 総合平均得点は 73.88 点であった。SQoL-F との間に有意な関連が見られた項目は、「現在の生活満足度」($p=0.002$)、「パートナーという時の気持ち」($p=0.001$)、「パートナーとの性的行為に対する気持ち」($p=0.001$)、「性的行為の頻度」($p=0.001$)、「挿入を伴う性的行為の頻度」($p=0.001$)、「性交痛」($p=0.005$)「男性パートナーの性機能障害の有無」($p=0.001$)、の 7 つであった。「性的行為の頻度」および「挿入を伴う性的行為の頻度」の項目において、「月に一回未満」と回答した者が最も多く、割合は 34.6%、挿入を伴う性的行為の頻度では 38.5%であった。性的行為の頻度と性の QOL との多重比較検定において、「月に一回未満」とそれ以上の群との間に有意差が認められた($p<0.001$)。挿入を伴う性的行為の頻度と性の QOL では、「月に一回未満」「月に 2～3 回」「月に 3～4 回」「月に 5 回以上」の全ての群間に有意差が認められた($p<0.001$)。なんらかの性交痛を感じると回答した女性の割合は 45.2%であった。

結論：生殖年齢にある女性の性の QOL スコアは諸外国よりも低いことが明らかとなった。セックスレス、性交痛および、パートナーに対する心理的要因は、性の QOL と有意な関連が見られた。助産師として、女性の性の QOL を高めていくには、パートナーとの性生活が苦痛なく心地よいものとなるように、ホリスティックな視点から積極的に関わっていく必要がある。